

ゆたかな海を次の世代へ

「もずく基金」産地見学・生産者交流会 報告 8月18日～20日 恩納村

2015年夏、「もずく基金」産地見学・生産者交流会が開催され、コープかがわからは2組の組合員さん親子と職員1名が参加しました。コープかがわ及び中国地方5生協は、恩納村漁業協同組合がすすめる“里海づくり サンゴ礁再生事業”を支援しています。次世代につなげる取り組みとして、“もずく基金”が活用され、サンゴが海の生態系に大きな役割を果たしている現状を聞き、体験、実感しました。



おんなそん 恩納村漁協の里海づくり

組合員さんが対象商品を利用することによって基金を積み立て、恩納村の海のサンゴ保全に役立てる「もずく基金」に取り組んでいます。

■サンゴの宝庫、沖縄県恩納村

海に広がるサンゴ礁は、生物の棲みかや魚などの餌の供給源になるなど、生態系の要となっています。もずくも、サンゴが育つ豊かな海でより元気に育ちます。

沖縄県恩納村の透き通った海にはサンゴ礁が広がり、太陽の光が海底まで降り注ぎ、もずくや海ぶどうの海藻養殖が盛んで、コープのもずくの産地でもあります。



■サンゴの危機的状況

ところが・・・

- (1) 埋め立て工事や降雨時の陸地からの赤土の流出
- (2) オニヒトデ大発生による食害
- (3) 地球温暖化による海水温上昇などにより、恩納村のサンゴは大きなダメージを受け、危機的状況に陥りました。このような地域のサンゴ礁は、自ら再生する力を失っているとも指摘されています。



▲サンゴが白くなり、やがて死んでしまう『白化現象』。平成10年のサンゴの白化現象は深刻で、その年のもずくの生産量は0(ゼロ)に近い状態になりました。

■サンゴ礁再生の取り組み

サンゴ礁絶滅の危機も懸念される中、恩納村漁業協同組合では、海の生態系を守る“里海づくり”事業を立ち上げ、サンゴの養殖や植え付け、オニヒトデの駆除などを行っています。



サンゴの養殖の様子▶

2014年度「もずく基金」贈呈式を開催



鳥取県生協、生協しまね、おかやまコープ、生協ひろしま、コープやまぐち、コープかがわの6生協で、総額2,000,137円を恩納村漁業協同組合に贈呈しました。この基金をもとに710本のサンゴ植え付けを予定しています。

【もずく基金対象商品】



▲このマークが目印です。



- サンゴが育てた太もずく(三杯酢)
- 恩納村産味付糸もずく
- 恩納村の早獲れ糸もずく(紀州梅)
- お弁当用もずく(三杯酢) など12品